

# 栃木の子どもの生活状況調査

## 報 告 書

平成22年 3 月

栃木県総合教育センター

## はじめに

今日、いじめや不登校、青少年犯罪の凶悪化・低年齢化などが問題となっています。さらには、児童生徒の学力や体力の低下、学習や運動意欲の低下、規範意識の低下に社会的な関心が集まっています。

栃木県教育委員会では、「心の教育の推進」を施策体系の「視点」の一つに位置付け、様々な施策を展開しています。これを受けて栃木県総合教育センターでは、子どもたちの生活の現状と問題点の把握に努め、子どもたちの心を健全に成長させるための方策を探ってきました。平成15、16年度には、子どもたち一人一人の生活に着目した「児童生徒の生活状況調査」、平成17年度には、子どもの規範意識に着目した「子どもの生活に関するアンケート」、平成18、19年度には、人間関係づくりに着目した「学校生活についてのアンケート」「児童生徒のコミュニケーションに関するアンケート」を実施し、報告してきました。

平成20年度は、現状や課題を踏まえて平成15年度の「児童生徒の生活状況調査」の調査項目の一部を見直すとともに、新たに保護者を調査対象に加えて、「栃木の子どもたちの生活状況調査」を実施しました。その結果を5年前の調査と比較するとともに、家庭における子どもの教育について4つの視点にまとめ、中間報告として公表しました。

平成21年度は、昨年度からの事業の最終年度として調査結果の詳細な分析と考察を行い、中間報告での4つの視点を再構成し、その結果を「7つの提言」と「学年ごとの特徴と具体策」にまとめました。

家庭、学校、教育行政、教育関係団体等、子どもたちに関わるすべての方々に、この調査報告書を役立てていただければ幸いです。

平成22年3月

栃木県総合教育センター所長

瓦井千尋

# 目 次

## はじめに

<b>I 調査研究の概要</b> .....	<b>P 1</b>
1 調査の経緯	P 3
2 調査の目的	P 3
3 調査の方法	P 3
4 質問の構成	P 4
5 分析・考察の方法	P 5
<b>II 提言</b> .....	<b>P 9</b>
提言 1 子どもが「納得」できる指導をしましょう。	P12
提言 2 早寝、早起き、あいさつが、自分からできる子どもに育てましょう。	P16
提言 3 テレビ・ゲーム・携帯電話、ルールを決めて守れる子どもに育てましょう。	P18
提言 4 指導、賞賛、傾聴で、子どもの自尊感情を高めましょう。	P20
提言 5 子どもからの信頼を得て、子どもの不安を軽減しましょう。	P22
提言 6 子どもの学習について食卓で話題にしましょう。	P24
提言 7 将来を展望できる「大人」に育てましょう。	P27
<b>III 学年ごとの特徴と具体策</b> .....	<b>P29</b>
1 学年ごとの特徴	P31
2 学年ごとの具体策	
(1) 小学校用(下学年)	P32
(2) 小学校用(上学年)	P34
(3) 中学校用	P36
(4) 高等学校用	P38
<b>IV 資料</b> .....	<b>P41</b>
1 単純集計結果	
(1) 児童生徒	P43
(2) 保護者	P70
2 調査票	
(1) 小学校第 2 学年用調査用紙	P89
(2) 小学第 5 学年、中学校第 2 学年、高等学校第 2 学年用調査用紙(共通)	P91
(3) 保護者用調査用紙(共通)	P95

# I 調査研究の概要

## 1 調査の経緯

栃木県総合教育センターでは、本県児童生徒の生活の様子や意識等の状況を5年ごとに把握し、基礎的なデータとしてまとめることが必要と考え、平成15年度には「児童生徒の生活状況調査」を実施して、単純集計結果を中間報告として提供した。また、平成16年度には、さらに分析を加え、「7つの提言」にまとめ報告した。

今回の「栃木の子どもの生活状況調査」は、第2回目の調査であり、5年前の調査項目を基本として、最近話題となっていることに関する調査項目や保護者に対する調査を加え、平成20年度に実施と単純集計の公表、今年度(平成21年度)には詳細な分析・考察と報告書のまとめという2か年計画で実施した。

## 2 調査の目的

本県児童生徒の生活習慣や行動傾向、保護者の児童生徒に対する働きかけや意識等を把握し、本県の子どもの日常生活に関する基礎資料を作成し、学校及び教育研究団体、教育行政機関等への情報提供を行うことにより、本県の教育振興ビジョン(二期計画)に示された「学ぶ力をはぐくむ教育の充実」と「心の教育の推進」に寄与するとともに、次期教育振興ビジョン策定の参考に資する。

## 3 調査の方法

### (1) 抽出方法

平成15年度に実施した「児童生徒の生活状況調査」との比較を考慮し、前回の抽出方法を踏襲した。

#### ア 栃木県内市町立小・中学校

学校規模別のグループを設定し、それぞれのグループから偏りがないように無作為に学校を抽出し、その学校の当該学年の1学級を対象とした。

#### イ 栃木県立高等学校

全日制高校について、学区・学科別のグループを設定し、偏りがないようにそれぞれのグループから無作為に抽出し、その学校の当該学年の1学級を対象とした。

### (2) 調査対象

学 年	対 象 学校数	実施児童 生徒数	実施児童生徒男女別内訳		実施 保護者数※
			男子	女子	
小 学 校 第2学年	27	807	417	390	795
小 学 校 第5学年		848	432	416	818
中 学 校 第2学年	23	664	324	340	636
高等学校 第2学年	20	768	367	401	687
計	70	3087	1540	1547	2936
回 収 率	-----	98.1%	-----		93.3%

※ 第1回調査(H15)では、保護者を対象としていなかったが、第2回調査(H20)では、調査対象となった児童生徒の保護者も調査対象とした。

(3) 調査方法

質問紙により回答を求めた。所要時間は15分から30分程度とした。

(4) 実施期日

平成20年9月22日(月)から10月3日(金)までのうち、学校が定めた期日とした。

4 質問の構成

(1) 児童生徒

各学年の質問項目は、下表1に示した3つの領域から成っている。各領域の項目数は、小学校第2学年とそれ以外の学年で異なっている。3つの領域は、過去の調査結果との比較のために、栃木県総合教育センターが平成15年度に実施した「児童生徒の生活状況調査」(以後「H15調査」)の質問を基本とし、新たな項目を加え再構成した。

なお、Cの領域の回答形式は「H15調査」では3件法であったが、今回はBCの領域にあわせて4件法にした。

(2) 保護者

保護者への質問項目は、各対象学年とも下表2に示した3つの領域から成っている。いずれの学年の項目も同じである。その中で、児童生徒の意識と保護者の意識とを比較するために、児童生徒と保護者に同一の内容の質問を設けた。

表1：児童生徒各学年の領域別質問項目数

領域	学 年	
	小 学 校 第2学年	小 学 校第5学年 中 学 校第2学年 高等学校第2学年
A あなたのふだんの生活について	20	48
B 勉強のことについて	7	11
C あなた自身のことについて あなたのことについて(小2)	6	20

表2：保護者の領域別質問項目数

領 域	すべての保護者
A お子様のふだんの生活とその指導について	20
B お子様の勉強のことについて	14
C 教育に関する考えや心がけていることについて	25

5 分析・考察の方法

「Ⅱ 提言」「Ⅲ 学年ごとの特徴と具体策」は、以下の手法と手順により分析したものをまとめたものである。因子分析と回帰分析の詳しい説明は、ⅢのP30を参照してほしい。

(1) Ⅱ 提言について

ア t-検定による5年前との比較による変化の有意性の検定

平成15年度調査と平成20年度調査の同一質問について、平均の差異のほかに、回答のばらつき(偏差)にも着目して偏差の比較により調査対象がほぼ同様の集団であることを確認する検定F-検定を行った上で、比較による変化が偶然ではなく、意味があると考えられるかを示すP値(有意水準)を、t-検定を用いて調べた。

H15・H20共通質問項目t-検定結果 有意水準:P<0.05 ---質問なし

質問	小2	小5	中2	高2
1 朝家族に挨拶する	有意 増		有意 増	
2 自分で起床する				
3 すっきり目覚める			有意 増	
4 毎日朝食を食べる		有意 増	有意 増	
5 部屋の掃除する	有意 増			
6 家族から注意される		有意 減	有意 減	有意 減
7 被注意時納得する	---	有意 増	有意 増	有意 増
8 被注意時反抗する	---	---		
9 放課後遊ぶ	有意 減	---	---	---
10 放課後どこで過ごすか	---	有意 自分	減	
11 放課後誰と過ごすか	---	有意 一人	減	
12 休日どこで過ごすか	---	有意 学校	増	
13 休日だけと過ごすか	---	---		
14 新聞を読むか	---		有意 減	有意 減
15 読書は月何冊か	有意 増	有意 減		
16 読書は大切だと思う				有意 減
17 授業が分かる	---	---		
18 勉強は将来に大切だと思う	---	---		
19 ふつうの日勉強時間		有意 増		有意 減
20 休日勉強時間				有意 減
21 習い事週何回か	有意 減	有意 減		
22 学習塾週何回か				

イ 因子分析による因子の検討

子どもの回答について、因子分析を行い、主要な項目の結果に影響を与えている因子についてそれぞれ調べた。

例として、小学校第5学年の因子分析結果(部分)を示す。因子分析により因子1の影響(因子負荷量)の大きい項目が「主要な項目」としてまとまる。これらの共通の原因について検討を行い、因子1には『自尊感情』、因子2を『家庭学習』、因子3を『携帯少』、因子4を『自律生活』、因子5を『不安』と名付けた。

小5 因子分析結果	因子				
	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
保護者は私を考えてくれている	.627	.008	-.006	-.080	-.195
保護者に褒められる	.599	.048	-.051	.030	-.261
やればできる	.552	.072	-.010	.147	-.070
今の勉強は将来大切になる	.477	.093	.061	.275	-.041
よいところがある	.447	.122	.039	.224	-.116
勉強に意欲的である	.447	.206	.021	.393	-.063
意見が違っても保護者は傾聴する	.439	-.007	-.038	.063	-.235
生活が楽しい	.430	-.034	-.003	.103	-.387
就きたい仕事ある	.426	.101	-.068	.035	-.119
読書は大切である	.421	.165	.019	.349	.074
将来の夢がある	.419	.022	-.043	.014	.077
月から木勉強時間長い	.050	.784	.002	.169	.012
休日前勉強時間長い	.097	.634	.037	.221	.029
休日勉強時間長い	.056	.567	.058	.272	.004
携帯電話の時間が短い	-.017	-.033	.882	.004	-.082
携帯電話を所持していない	-.017	.014	.810	.015	-.010

◇ 「保護者は私のことを考えてくれている(保護者への信頼)」は『自尊感情』の主要な項目の中で最も因子負荷量が高いことから、自尊感情を最も支えているものと考えた。[P20参照]  
 ◇ 『自尊感情』の中に、「就きたい仕事がある」「将来の夢ある」の項目がある。この2つは、中学2年・高校2年では、将来展望因子を形成している(下の表参照)。[P27参照]

提言の2から7は各学年の子どもの因子に基づいている。提言1については、t-検定結果で前回調査との違いがあるものの中から、重要であると思われる「子どもへの指導」とした。

因子名	小2	小5	中2	高2
自律生活	自律生活	自律生活	携帯少・ゲーム少	ゲーム少
不安	不安	不安	不安	不安
家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
将来展望			将来展望	将来展望
提言	提言2	提言3	提言4	提言5
			提言6	提言7

ウ 相関の分析とその強さによる提言の根拠の検討

相関係数の有意検定を行った。例として小2の相関係数表の部分を示す。有意となったものをもとに提言をまとめ、代表的なものにクロス集計を行った。

小2 相関係数 * は5%水準で有意 **は1%水準で有意	朝家族に挨拶する	就寝時刻一定	早く寝る	自分で起床する	すっきり目覚める	毎朝朝食を食べる	自分で掃除する	分担仕事する日多い	家族注意されない	放課後友達と遊ぶ	夕食時刻が早い
朝家族に挨拶する	1.000	.114**	.142**	.210**	.254**	.166**	.248**	.260**	.168**	.013	.060
就寝時刻一定	.114**	1.000	.325**	.110**	.214**	.065	.140**	.139**	.155**	-.031	.064
早く寝る	.142**	.325**	1.000	.127**	.204**	.132**	.136**	.126**	.112**	-.058	.249**
自分で起床する	.210**	.110**	.127**	1.000	.417**	.006	.274**	.181**	.283**	.093**	.080*
すっきり目覚める	.254**	.214**	.204**	.417**	1.000	.103**	.341**	.221**	.234**	.069	.051
毎朝朝食を食べる	.166**	.065	.132**	.006	.103**	1.000	.080*	.065	.029	-.015	.006
自分で掃除する	.248**	.140**	.136**	.274**	.341**	.080*	1.000	.271**	.225**	.080*	.078*
分担仕事する日多い	.260**	.139**	.126**	.181**	.221**	.065	.271**	1.000	.131**	.041	.067
家族注意されない	.168**	.155**	.112**	.283**	.234**	.029	.225**	.131**	1.000	-.013	.029
放課後友達と遊ぶ	.013	-.031	-.058	.093**	.069	-.015	.080*	.041	-.013	1.000	-.054
夕食時刻が早い	.060	.064	.249**	.080*	.051	.006	.078*	.067	.029	-.054	1.000
生活が楽しい	.124**	.114**	.132**	.091*	.148**	.131**	.177**	.114**	.110**	.066	.085*
生活が忙しい	.024	.012	-.032	.045	.039	.013	.042	.192**	-.033	.038	-.021
保健室を使わない	.047	.056	.113**	.062	.046	.051	.056	-.010	.050	-.075*	-.002
読書量が多い	.089*	.107**	.092*	.101**	.098**	.024	.110**	.151**	.128**	-.038	.009
読書は大切である	.154**	.052	.077*	.090*	.160**	.133**	.190**	.212**	.052	.026	.047
家族が話を聞いてくれる	.119**	.069	.127**	.056	.095**	.049	.145**	.146**	.118**	.023	-.025
授業が分かる	.195**	.124**	.106**	.186**	.209**	.210**	.257**	.099**	.203**	.000	.111**

エ 重回帰分析による因果関係の確認

提言の内容について、因果関係を重回帰分析で確認した。結果は図にして提言4-(1)と5-(2)のみ示した。

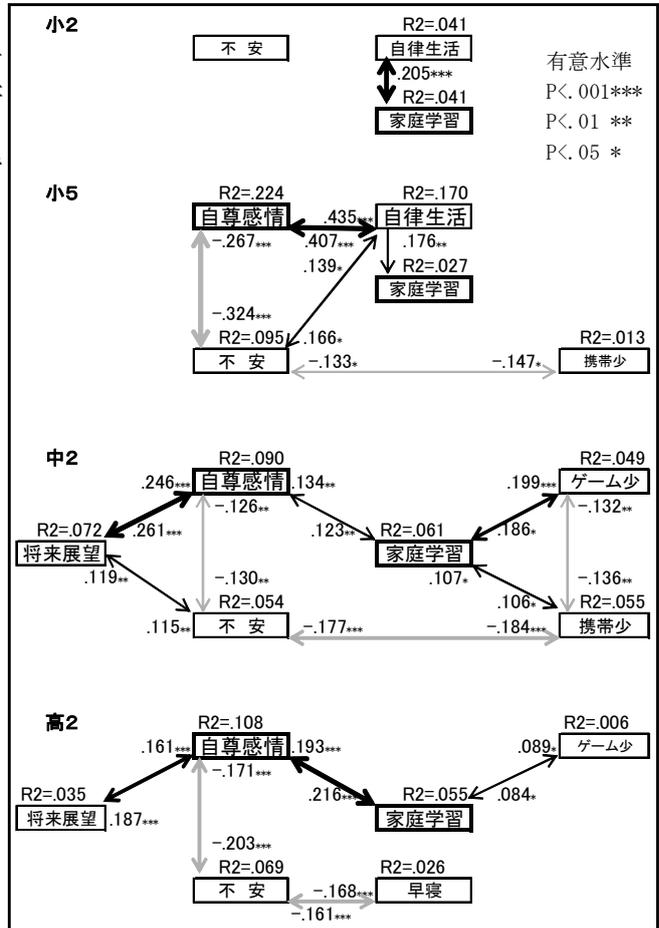
従属変数: 大人への信頼	$\beta$	有意確率
賞賛	.332	.000
傾聴	.269	.000
納得できる指導	.100	.007

調整済み R2 乗=.302

(2) 「Ⅲ 学年ごとの特徴と具体策」について

ア 因子間の重回帰分析による学年ごとの特徴の把握

因子間の重回帰分析を行い、各学年ごとに、因子相互の関係と程度を調べた。因子及び因子の項目と因子間の関係から、各学年の全体としての特徴を簡潔にとらえた。主要な項目とその因子負荷量は、次のイで取り扱うので、ここでは考慮していない。



## イ 因子負荷量による具体策の「10の重要項目」の把握と検討

各学年の具体策は、「〇〇が重要です」で終わる「10の重要項目」と、「そのために大切なのは、大人が」で始まる下位項目がある。

「10の重要項目」については、「主要な項目」の因子負荷量について、不安因子の「主要な項目」の因子負荷量にマイナスを乗じ、因子負荷量を肯定的な方向でそろえ、「主要な項目」ごとの各因子負荷量の合計の絶対値の大きいものを根拠に検討した。

## ウ 「10の重要項目」についての回帰分析による下位項目の把握と検討

イで取り出された「10の重要項目」を従属変数とし、下の表の項目を独立変数として、重回帰分析を行い、原因と程度を調べた。常識的に因果にならない場合や、因果が明らかに逆なものに配慮し、有意なものだけ(P<.05)取り出した。

これをもとにして、「10の重要項目」それぞれについての下位項目を検討した。子どもを独立変数にして求められた原因と保護者を独立変数にして求められた原因は、 $\beta$  値の比較ができないので、説明率を参考にしながら、検討を加えて順位を決定した。また、場合によっては、求められた原因のいくつかをまとめたり、その学年の子どもに適切な言葉に換えたりした。

小5・中2・高2の独立変数

子ども		保護者	
朝、家族に挨拶する	授業が分かる	挨拶させている	読書を勧める
早く寝る	勉強に意欲的である	早く寝よう言う	新聞を読むことを勧める
自分で起床する	勉強は将来大切になる	自分で起床するように言う	学校の奉仕作業などに参加する
毎朝朝食食べる	平日の授業以外の勉強時間が長い	夕食時刻が一定である	地域の行事などに参加する
夕食時刻が早い	自分にはよいところがある	子どもの部屋を掃除をさせる	子どもの教育方針を大人同士で話合って決める
分担された仕事の日数多い	友達の誘いを断れない	生活の仕方を注意することが多い	子どもと共に活動したり様子を見に行く
家族から注意や意見をされる	乱暴な言葉をつかう	注意したとき子どもは納得する	子どもがどこで何をしているか把握している
注意されたとき納得する	将来の夢がある	注意したとき子どもが不快な態度をみせたら叱る	子どもの友関係を把握している
注意されたとき反抗する	一人が楽しい	子どもは家のきまりを守る	子どもの変化見逃さない
家の決まりを守る	イライラすることが多い	子どもを褒めることが多い	子どもに干渉しすぎない
意見が違っても保護者は傾聴する	約束を破ることが多い	子どもはテレビ等を見る時間が少ない	子どもの教育に家庭の影響は大きいと思う
大人がいなくても決まりを守る	就きたい仕事がある	子どもは授業以外のPC利用時間が少ない	子どもの教育に学校の影響は大きいと思う
生活が楽しい	お腹が痛くなることが多い	子どもはゲームのルールを守る	子どもの教育にメールやゲームの影響は大きいと思う
生活が忙しい	保護者は私のことを考えてくれている	子どもは携帯利用時間が少ない	子どもの教育に友達の影響は大きい
時間を上手に使う心がけをする	やればできると思う	平日の勉強時間を長くするように言う	友達を大切にするように言う
保健室を使わない	自分が悪いと思ってしまうことが多い	勉強しなさいと声をかける	人に迷惑かけないように言う
新聞を読む	誰も私を大切にしてくれない	子どもの勉強の質問に答える	自分のことは自分でするように言う
1ヶ月の読書量が多い	今、夢中になっていることがある	テストの点数を確認する	返事をさせている
読書を大切だと思う	怒りっぽい	テスト間違いを直させる	親に正しい言葉づかいをさせる
保護者に褒められる	カッとしてものを壊すことが多い	家庭で授業を話題にする	無駄づかいをしないようにいう
テレビ等の視聴時間が少ない	人の目気になる	一緒に宿題をする	時間を上手に使う工夫をさせる
授業以外のPC利用時間が少ない	みんな私を嫌っていると思う	一緒に学習計画を作成する	
ゲームをする日が少ない	気持ち悪くなる人が多い	勉強が将来大切になることを話す	
携帯電話を所持していない	信頼できる友人がいる	学ぶことの大切さを話す	